

1. まえがき

農林工学系年報は、本学系教職員の自己評価と将来への発展のための参考になることを意図して編纂されているものです。本号は、平成9年度版であり、この1年間の構成員各自の研究、教育、管理運営、学会活動、国際活動等を通しての足跡ともいえるものです。全般的に概観すると、研究活動では全分野にわたり活発に展開されており、科研費の採択率では45%と8年度に比べて10%増、学内プロジェクトA 1件が採択されています。奨学寄付金、受託研究費等についても合わせて30件と前年度に比べて件数、金額ともに倍増、受託研究費は3倍に近い伸びを示しており、研究活動面での活躍ぶりを示すものです。国際交流面でも国外での発表件数は35件、海外学術調査、共同研究、外国人研究者の受け入れなど、海外研究者との交流が活発に行われています。本学系の前川教授が世話人となっている学術振興会日中拠点大学方式交流計画が軌道に乗り、本学系教官も多数参加し、共同研究が実施され中国研究者との交流が活発に展開されていくことが期待されます。また進行中である農学研究科の再編整備と合わせ、悲願の生物農林学系棟の第一期工事が竣工し、研究・教育のさらなる進展への基盤造りも充実つつあります。

また、本号ではとくに昨年度退官された小中俊雄、黒石 巖両先生から特別寄稿をお寄せいただきました。私たちが陰に陽にご指導いただきましたことに対し、あらためて深くお礼を申し上げます。

内外の教育環境も大きく変化しつつありますが、本年報を関係者にご一読願ひ、本学系教職員の活動状況を正しく評価いただき、忌憚のないご意見を頂戴し、将来の発展への糧としたいと願っております。

おわりに本年報の編集委員のご尽力と学系教職員のご協力に対し、心より感謝申し上げます。

平成10年12月

農林工学系長 天田 高白